

絆 求 め て

6月21日発行

文責 幼児教育専門員 久保田学



春季公開講座を実施しました！

令和4年5月21日(土)、玉川大学教育学部教授 大豆生田 啓友先生を講師にお迎えし、「春季公開講座」をWEBで実施しました。テーマは、「保育の質を高める～保育の可視化とその活用を通して～」で、先生が体験された様々な事例をご紹介いただき、その事例を通して、これまでの実践の見直しや今後取り組んでいきたいことについて考える機会をいただきました。

<研修から学んだこと・今後に生かしたいこと>

- 今までの保育は、子どもが主体と言いつつも、どの子にも同じ力をつけてもらい、同じことが出来る様になってもらうことが、大きな目標でした。でも、出来るようになることが大切なのではなく、どんな事に心を動かし、どんなことを楽しいと思い取り組もうとしたのか、また、失敗などを繰り返し意欲的に取り組んだのか、一人ひとりのその過程が大切であると私自身言い切りたいと思います。
- 現在、一日一日の保育にいっぱいいっぱいになってしまうことが多い。そのため子どもの声、つぶやきを聞くことができていない。また、気になる子に対して、良さを伝えるより注意が主になってしまっている。集団生活ではあるが、その中の個々を見て、一人一人の良さをクラスの中で共有していくことが大切と学んだ。
- 今までは子どもの困る面に目が行きがちでしたが、これからは「よさ」を見ることに重点を置いて、面白がっていることや夢中になっていること、子どもの視線の先にあることに目を向けて、子どもと一緒にワクワクする時間を増やしていきたいと思います。
- …子ども達やクラスの担任の先生たちと語り合いながら楽しい保育、それぞれが、自分が自分でいられる雰囲気大切にしていきたいです。
- 研修後、早速サークルタイムを取り入れています。朝の自由遊び後に、どんなことして遊んだのかや、遊びでの発見などを輪になって発表し合っています。1人の興味がみんなに繋がり、クラス全体のブームになり、全体活動がしやすくなりました。また、今までは先生対子どもだったのが、子どもたち同士で会話が広がったり、話し合いが深められたりして、とてもいい時間になれていると感じ取り入れて良かったなと思いました。
- 昨年サークルタイムをやってみようと思っていましたが、未満児だから難しいという勝手な概念で取り組むことができませんでした。でも、今回改めてサークルタイムからブームが生まれていくきっかけになれるよう挑戦したいと思い、年少クラスでサークルタイムの時間を作ってみました。まだ子どもへの話の振り方や子どもたち同士での話が上手く広がらずでしたが、今どのくらいの子が、どんな遊びでどんな事をするのが好きなかをサークルタイムによって、把握することができました。そこから、「虫探し」が好きな子が多かったため、図鑑を何冊か用意したり春の虫の写真を用意したりすると虫探しブームが広がりつつあり、今までよりも子どもたちの表情がキラキラとしてきた気がします。また、子どもたち同士の会話でも、誘い合って虫を探そうとする姿や見つけた子に「すごいね」と声をかけられる姿が増えてきています。今までやっていたつもりではいましたが、大豆生田先生のお話から改めてしっかり色々なところで子どもの興味関心に耳を傾け、ブームをどんどん作っていける環境にしていきたいと思います。また、保護者に見える保育を写真など使ってどんどん伝えていきたいと思いました。ありがとうございました。

○去年から園でもドキュメンテーションを取り入れてきました。ドキュメンテーションを使うことで、子どもたち自身も遊びを見返して新たなアイデアが生まれました。

○ドキュメンテーションの作成を通して、自分の子ども理解を深めることはもちろん、そこから生まれる同僚との対話、保護者との対話、子どもとの対話を大切にしていきたいと思います。また、育ち合いが生まれるサークルタイムは、やってみたいと思います。

○今回の講義を受けて、自分には足りない部分がたくさんあることを改めて感じ、さっそく活かしてみたい！と思うことがたくさんありました。サークルタイムのような子どもと意見交換をする時間を毎日作っていましたが、隊形が違いました。今日、先生が見せてくださった写真の隊形をみて、週明けからは、まるくなって話をしてみようと思いました。もっともっと子どもとの距離が縮まり、素直でワクワクする声が出るのではないかと楽しみです。年長の担任をしているので、もっともっと子どもたちからの声を拾って、保育を展開していきたいと思いました。運動会の種目を子どもたちと考えたり、散歩に行きたい時に行けるようになったり、みんなで探検や観察に行ったり、そういう経験をたくさん子どもたちが味わえるようにしていきたいと思いました。ただ、勤務先の園では、自分がやりたい保育ができない部分もあります。上司からNGが出ることがあります。それで、諦めてきたこともたくさんあります。命に関わることや、人を傷つけることはさけますが、子どもと過ごす中で、子どもたちがやりたい！と思ったことが、なんでもいつでもできるような保育環境をまず作っていくことが必要だと思いました。コドモンを導入していますが、まだまだ使える機能を使いこなせていないので、ドキュメンテーションを取り入れながら、保護者に発信していけたらと思っています。先生が紹介してくださったドキュメンテーションのすずめを手に入れて、少しずつ実践していきたいと思います。今まで気づかなかった子どもたちの成長や、個性をたくさん発見できそうな気がします。

○子どもたちの遊びに入ることも大切だけれど、少しひいてみることも大切であると学び、今まで、子どもたちと一緒に沢山遊ぶことを意識していましたが、時には遠くから姿を見守り、子どもたち同士のみでの学びあいの時間も大切に考えていきたいと感じました。

○今未満児担当ですが、小さいながらに気づきや、体験を話してくれる事があり、少しずつサークルタイムの前段階として、子どもたちと共有して試みることができるかなと思いました。

○子供のワクワクは先生のワクワクからというお言葉から保育を楽しみ子どもたちと共に発見し探究していく精神をいつでも忘れずにいたいと思います。そして、お部屋に子どもの感性をくすぐり探究したいと思えるような廃材等を置いて置けるようにしていきたいと思います。

昨年に引き続き、大豆生田先生に研修の講師をお引き受けいただきました。多くの先生方から、「ぜひ大豆生田先生から保育ドキュメンテーションについてお話をお聞きしたい。」との声がよせられていました。保育ドキュメンテーションを作成する目的は色々あります。しかしその最大の目的は、保育者が子どもたちの姿を通し、自己の保育を振り返ることにあると思います。また、研修の中で「サークルタイム」についてのお話がありました。ある園を訪問させていただいた折、園長先生から次のようにことをお聞きしました。「私の園では、何年か前から、サークルタイムの時間を設けています。最初は、保育者が願うような語り合いになっていませんでした。しかし、経験を重ねることで、子ども達の確かな成長を実感しています。そしてこの成長が園小の接続に大きな意味を持つと感じています。…」

子ども達を「そんなことできない存在」とみるか、それとも「可能性のある存在」とみるかで、私たちの支援の仕方も変わってきます。今回の研修を通し、これまでの保育を問い返してみる。そして職員同士で、振り返りのための「語り合い」がされるといいですね。（専門員 久保田）